

令和5年度第2回厚木市セーフコミュニティ推進協議会 議事概要

1 開催日時 令和6年2月5日（月）午後2時から2時40分まで

2 開催場所 厚木市役所 本庁舎4階 大会議室

3 出席者 厚木市セーフコミュニティ推進協議会委員 41人

4 案件

セーフコミュニティ国際認証をめぐる現況について

5 報告

令和5年度セーフコミュニティ活動状況について

6 配布資料

(1) 令和5年度第2回厚木市セーフコミュニティ推進協議会会議次第

(2) 厚木市セーフコミュニティ推進協議会設置規程

(3) セーフコミュニティ国際認証をめぐる現況について

資料1

(4) 厚木市セーフコミュニティ推進のためのロードマップ

資料2

(5) 令和5年度セーフコミュニティ活動状況

7 会議概要

(1) あいさつ 会長（市長）

本日は、令和5年度第2回厚木市セーフコミュニティ推進協議会に御出席いただき、感謝申し上げます。セーフコミュニティ（以下、SC）の理念は、「事故やけがは偶然の結果ではなく予防できる」だが、本日は雪の中、若干この理念に反し皆様に御出席いただいた。改めて感謝申し上げます。

SCの理念の下、日々、市民及び関係団体の皆様の御協力により、誰もがいつまでも安心・安全で健康に暮らせるまちづくりの実現に向けて、SC活動が推進されている。今後においても、SCの理念の下、安心・安全なまちづくりを皆様に御協力いただきたい。

本日は、防災、交通安全、こどもの安全対策の各分野において、SC活動を担っていただいている対策委員会の皆様に御出席いただいている。活動に御協力していただいている皆様に、SCの現況を御理解いただく機会となることを心よりお願い申し上げます。

(2) 案件 セーフコミュニティ国際認証をめぐる現況について 議長：会長 資料1、2

【事務局説明】

資料1 セーフコミュニティ国際認証をめぐる現況について

- 1 国際認証「SC」の概要
- 2 厚木市SCのあゆみ
- 3 地域と共に15年間活動を継続して得られた成果・状況

上記については、資料のとおり。

4 SC国際認証都市の現況

国内で17あった認証自治体のうち、7自治体が国際認証期間満了している。つまり、SCの認証の継続を取りやめている。残り10の自治体のうち2つの自治体は、次回の国際認証取得を目指さないことを確認している。

なお、本市は2021年に3度目の認証を取得しているため、現在の認証期間は、2026年までとなっている。

5 SC国際認証をとりまく状況の変化

本市で事業を開始した当時は、世界保健機関（以下、WHO）が、スウェーデンのカロリンスカ医科大学の附属機関としてSC協働センターを設立し、SC国際認証制度を実施していた。

しかし、2015年には同センターが閉鎖され、WHOが認証制度から手を引いた形となった。

現在、SCの認証機関である国際SC認証センターは、設立直後から、WHOと公的協定を締結するための申請書を、提出しているが、未だWHOから返答はない。

つまり、現在、WHOとの関係を裏付けるものはない。よって、現在のSC認証機関は、NGO団体へと変わっている。

6 SC国際認証を継続する場合のメリット・デメリット

(1) メリット

SCのロゴマークを使用したPRができる。

次に、取組に対する第三者による客観的な評価がなされる。

そして、世界基準の仕組みを備えた安心安全都市として、広くアピールすることができる。

(2) デメリット

認証維持に係る経費を継続的に負担する必要がある。認証に係る費用は、主に業務委託の費用となる。委託の内容については、年間の活動支援業務委託に加え、認証の際に、英文の申請書を作成するための業務委託、事前指導業務委託、現地審査業務委託、認証式典業務委託などである。金額としては、1回の認証につきおよそ1,000万円を支出している。

次に、前述のとおりWHOとの関係性が無くなり、認証の価値が低下していることが挙げられる。

(3) その他

活動の支援体制が脆弱であることが挙げられる。日本における事務局である日本SC推進機構からは、本市の課題や取組に対して十分なアドバイスを得ることができていない。

次に、前述のとおり取組自治体が減少傾向にあることが挙げられる。

そして、市議会からは、SCの認証及び費用について問われている。

このような経緯から、SC推進協議会の委員の皆様には、SC国際認証をめぐる現況について、情報を共有させていただいた。

資料2 厚木市セーフコミュニティ推進のためのロードマップ

このロードマップは、令和4年7月開催の本協議会において承認されている。2026年（令和8年度）の4度目の認証を目指したロードマップとなっている。

【会長意見及び提案】

セーフコミュニティ国際認証をめぐる現況について、取組開始から15年の時を経て認証団体や国内の現況に変化があること、委員の皆様には御理解いただいたと考える。

セーフコミュニティは、対策委員会が主となって取組を展開している。本日は、セーフコミュニティ対策委員会の委員長の皆様には出席していただいている。実際の活動状況について、御意見を伺いたい。

【対策委員会委員長意見】

交通安全対策委員会委員長 私も当初からSCの認証に携わってきた。私たちが活動に取り組んでいる目的は、認証を取得することではなく、厚木市民の健康、あるいは安心して安全な暮らしができるまちづくりに重点を置いている。

また、厚木市には7つの対策委員会がある。様々な分野にて検討を行っているが、それぞれが事故やけがの減少を目的にPDCAサイクルを回しながら推進している。

時代の流れも変わり、対策委員会のなかには現状のままが良いのか、あるいは取組が重複しているものは集約するか、対策委員会の組織についても再度検討する必要が出てきている。このため、早急に検討するための委員会を設置し、議論を行い、方向性について示していく必要があると考える。皆様、厚木のまちづくりの一環として、また発展としてセーフ

コミュニティに是非御協力のほどお願いする。

子どもの安全対策委員会 交通安全対策委員会委員長の御意見に賛成である。その理由として、3点ほど挙げる。

一点目に、今、セーフコミュニティに求められているものが、市民の主体的な活動である。行政主導型から民間主導型へ、移行する良い時期に来ていると考える。

子どもの安全対策委員会で、話題に上っている課題のひとつに、ネグレクト問題がある。ネグレクトは、表面化されず、取組の指標を設定することが困難という問題がある。皆様の記憶にもあると思うが2年前、市内でこどもが車内に放置され熱中症で亡くなった事件があった。厚木市では、ネグレクトに関する通報や情報提供が多い現状がある。ただ、それによどのような対策を行ったらいいのか、今までのセーフコミュニティの取組では難しい。

二点目に、子どもの安全対策委員会では、大学生や若手の子に参加してもらっている。若い人たちの意見を反映し、厚木のこれからの未来を若い人の力で運営することを考えている。若い人からは、やはり素晴らしい意見がたくさん出てくる。そういった意見を取り入れていくためにも、新しい議論が必要になっていると考える。

三点目に、今、こどもたちの関心はスマートフォンの中にある。ただ、インターネット内の不審者や犯罪者に対する対策には、現在のセーフコミュニティの取組では対策できていない現状がある。今の時代だからこそやらなければならない内容のセーフコミュニティに、今こそ議論して昇華していく必要があると個人的には考えている。

防災対策委員会委員長 交通安全対策委員会委員長、子どもの安全対策委員会委員長の意見と相違ない。

【委員意見】

委員 事務局説明、そして対策委員会委員長の話を聞き、認証を続けることについてはネガティブな印象を受けた。取組については、今ここで継続の是非を問うのは時期尚早である。

しかしながら、認証取得については、市民調査においても「SCの取組を今後も継続して推進していく必要がある」と思う割合が、2011年と比較して22ポイント減少していること、認証に係る費用が1,000万円ほどかかることなどをふま

えると、認証については検討が必要と考える。

こうした取組は、開始時には大義名分があり、意気揚々で行うが、その後は大変難しい。そのため、この場では結論を急がず、先ほど交通安全対策委員会委員長から提案があったように、実際に活動を担っている7つの対策委員会の委員長や、行政のメンバーも含めて、方向性を検討していただき、再度協議会に諮った方が良いと思うが、いかがか。

【会長意見】

今後の方向性については、対策委員会等の委員長等による検討委員会を発足させていただき、協議していくということによろしいか。もし、御異議がないようであれば拍手をもって決める。

【委員】 拍手多数

【会長意見】

拍手多数につき、検討委員会を発足し、協議を進める。

(3) 報告 令和5年度セーフコミュニティ活動状況について

令和5年度のセーフコミュニティ活動状況について、事務局から参考資料に基づき説明を行った。

(4) 閉会 副会長